

つかこうへいと筑豊研究会

No.1

発行：筑ゼミ「つかこうへいと筑豊研究会」
発行日：平成29年5月25日
お問合せ：090-4474-8051（池田まで）

●「しのぶ会」をきっかけに

「つかこうへいと筑豊研究会」設立

七月十日は二〇一〇年に亡くなられた、つかこうへいさんの命日です。昨年は七回忌でしたので、つかこうへい氏と親交のあった梁木靖弘先生をお呼びして「つかこうへいをしのぶ会」を開催しました。梁木先生は西日本新聞で『そこにつか芝居があった』を現在も連載中で、同時代を生き、演劇界の巨星の作品論を綴られています。

この「しのぶ会」をきっかけに、昨年十一月、筑豊ゼミナール（筑ゼミ）の中に「つかこうへいと筑豊研究会」を設立。定例会は偶数月に開催。今年二月十九日（日）の第一回の定例会には、大牟田市や久留米市、福岡市、宗像市など県内各地からつかファンが二五名集い、つか氏を紹介したDVDを鑑賞しました。

●第2回定例会報告

恩師が語る「つかこうへい」像

四月十六日（日）の第二回定例会は旧山田高校で英語教師だった恩

師・永吉博義先生につか氏の思い出を語っていただきました。

つか氏は中学時代にはカントをはじめ、ニーチェやトルストイなどロシア文学を読破していてビックリしたことや、進学で悩んでいた金原少年（つかこうへい）の相談に数人の教師で乗ったことなど、当時のことを思い出しながら語って頂きました。

哲学と外国文学に傾倒し、九州は田舎の筑豊から東京へ巣立っていった金原青年は、いかにして東京をはじめ関西や地方の学生や若者たちの心を掴み、演劇界のカリスマとなり、日本の演劇界に大きな影響を与え、衝撃を与えたか計り知れません。

演劇界で「つか以前つか以後」と言われる所以です。

筑豊が生んだこの偉大な劇作家・演出家・小説家のつかこうへい氏の偉業を讃えるとともに、今年も七月に「しのぶ会」（*仮称「すかぶら忌」）を開催したいと思います。

*「すかぶら」とは筑豊独特の方言で、意味は「怠け者」。話題が豊富で周りを和ませる愛嬌者で、つかさんは好んで、「すかぶら」の話いろいろな場面で語っています。

❖六月定例会のお知らせ

◆日時：六月二十五日（日）

開始 一三時三〇分

◆場所：王塚装飾古墳館

（桂川町寿命三七六番地）

JR福北ゆたか線で約三〇分

桂川駅下車 徒歩一〇分

☎〇九四八―六五―二九〇〇

*王塚古墳は6世紀中頃に作られた前方後円墳で、我が国における装飾古墳の頂点として昭和27年に国の特別史跡に指定される。

★つかこうへいの代表作の紹介

〈主な戯曲・脚本・小説など〉

「熱海殺人事件」（1986年映画化）、「初級革命講座 飛龍伝」、「売春捜査官」、「戦争で死ぬなかつたお父さんのために」、「郵便屋さんちよつと」、「弟よ」、「出発」、「蒲田行進曲」（1982年映画化）、「銀ちゃんが逝く」、「ロックオペラ サロメ」、「青春かけおち篇」（1987年映画化）、「幕末純情伝」（1991年映画化）、「広島に原爆を落とす日」、「ストリップパー物語」（原題・「ヒモのなし」）、「寝取られ崇介」（1992年映画化）等。

❀つかこうへいを「しのぶ会」

「すかぶら忌」(仮称)

◆日時 七月九日(日)

一三時三〇分〜

◆場所 善照寺

(嘉麻市上西郷五九〇番地)

☎〇九四八(五七)〇六四五

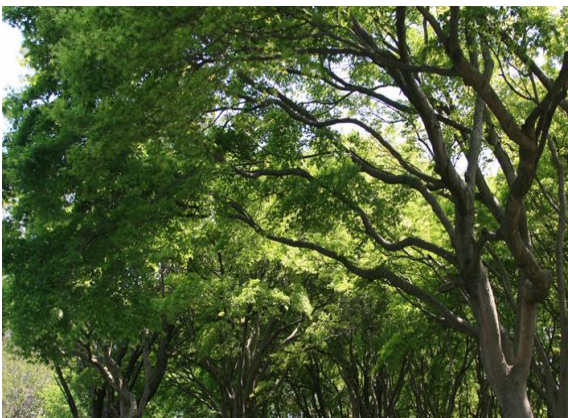
つかこうへい氏の「しのぶ会」開催を迷っていた時、「つかさんは賑やかなことが好きだったから、『もっと派手にやらんか!』と激を飛ばしてますよ」と元大分市つかこうへい劇団事務局長の衛藤延洋さんの言葉を励みに今年も「しのぶ会」開催を決定。



昨年の「しのぶ会」の参加者の皆様

平成 29 年度「つかこうへいと筑豊研究会」予定表(会場・日程等変更あり)

定例会の日時・場所	予定内容	会場
6月25日(日) 13:30~15:30	つかこうへいの小説、脚本、芝居、映画などどんな作品でもいいので、つか作品の魅力、感想など語り合う。	桂川町 王塚装飾古墳館
7月9日(日) 13:30~15:30	8回目の命日(仮称・「すかぶら忌」) *6月と7月は決定。沢山の参加をお待ちします。	嘉麻市 善照寺
8月	お休み	
10月15日(日) 13:30~15:30	つか作品(出版・映像・観劇等)を読んだり、鑑賞・観劇した感想を語り合う。	嘉麻市 善照寺
12月17日(日) 13:30~15:30	つかこうへいを取り上げ、紹介したドキュメンタリーなどDVDの鑑賞を予定。	嘉麻市 善照寺
2018年2月18日(日) 13:30~15:30	元大分市つかこうへい劇団の設立に尽力された衛藤延洋氏につかこうへいを語ってもらいます(予定)。	嘉麻市 善照寺
4月15日(日) 13:30~15:30	つか作品や、人柄について語りあう。	嘉麻市 善照寺



❀お願いとお知らせ❀

高校時代つかさんは新聞部で部長として活躍。特にエッセイ「反逆児」は評判でした。「『反逆児』を書いている部長の金原さんってどんな人だろうと部室まで見に行った」と語る後輩もいるほどです。その「反逆児」をはじめ、当研究会ではつか氏が小・中・高校時代に書いた作文や、また幼少時の写真等を探しています。お持ちの方はお知らせください。当研究会では資料として集めています。